



進取

令和5年2月28日発行

阿久根市立阿久根小学校
29学級 児童数434人

なぜタブレットが必要なの？

校長 深川 光久

早いもので、2月も終わりとなりました。1月の学級PTAで4年生以上のタブレットの持ち帰りの話をしました。2月終盤になって、持ち帰っている学級もあるようです。さて、この学習用タブレットは文部科学省のGIGAスクール構想をもとに、各学校に児童1人1台配布されることになりました。1人1台のタブレットなんてすごいなと私たち教師も驚きましたが、アメリカでは10年ほど前のオバマ政権下で、すでに行われていたとのことです。それで、新型コロナウイルス感染症のときに、アメリカの子供たちがタブレットで家庭学習をしている映像がニュースで放送されていました。それでは、タブレットでの学習がなぜ必要になってくるのでしょうか。文部科学省の「令和の日本型教育の構築を目指して」という文書に書かれています。少し固いですがお許しください。



- 子供たちの多様化が進む中で、個別最適な学びを実現する必要があること。
- 情報化が加速度的に進むSociety5.0時代に向けて、情報活用能力など学習の基盤となる資質・能力を育む必要があること。
- 少子高齢化、人口減少という我が国の人口構造の変化の中で、地理的要因や地域事情に関わらず学校教育の質を保障すること
- 災害や感染症等の発生などの緊急時にも教育活動の継続を可能とすること。
- 教師の長時間勤務を解消し学校の働き方改革を実現すること

※Society5.0・・・Society1.0（狩猟社会）、Society2.0（農耕社会）Society3.0（工業社会）

Society4.0（情報社会）、Society5.0（超スマート社会）AIなどが導入され、様々なものが自動化される社会

タブレットを初めとするデジタル機器の取扱は、今からの変化が激しく、またどのように変化していくか予測が難しい社会を生きる子供たちには、どうしても必要となってくるものと考えられています。

OECDの学力調査では、日本の子供たちは、デジタル機器をゲームやチャットに使っているという割合で1位。学校の学習や家庭学習に使っている割合で最下位だそうです。つまり、遊びには使うが、学習には使わない。すでに、デジタル機器の活用において、世界から大きく後れを取っているということになります。

阿久根市のタブレットの中には、1人1人に最適な学びができるようにするため、AI機能でその子にあった問題が出されるドリルパークというアプリが入っています。子供たちが自分の理解度に合った学習ができるわけです。

これから、タブレットを持ち帰るようになると、様々なトラブルもあるかもしれません。その一つ一つを学校と家庭で一緒に乗り越え、タブレットを上手に学習用具（鉛筆や消しゴムのように）として使えるようにしていかなければいけません。

タブレットの扱いは心配されることと思います。学校のタブレットは、学習以外に使用しないこと。紛失しないように家庭で置き場所を決めておくこと。投げたり、落としたりしないよう大切に使うことなどをご家庭でも指導してください。